

2022年3月期 決算説明会 主要質疑

Q.PVDFの今年度予想は保守的にみているとのことだが、どのようなリスクを織り込んでいるのか

A.欧州における電動車販売、車載用電池の成長鈍化、また中国ゼロコロナ政策による当社PVDF工場の停止などのリスクを想定し、相当厳しい目で見えて、このリスクを業績予想数値に織り込んでいる。

Q.2022年度のPVDF生産はフル稼働で、数量は拡大するのか

A.上記のリスクを織込み、公称能力までは生産できないケースを想定した。リスクについては次第に状況も見えてくると思われ、それに応じて業績予想数値の見直しを検討していく。

Q.PVDFはフォーミュラ制を導入したとのことだが、どのくらいの比率か。またPVDFの原料は高騰が続いているが、この動向をどのように見ているか

A.フォーミュラ制の対象となる売上はPVDFの概ね半分くらい。原料高騰については一時期に比べ落ち着いてきたと認識するが、供給量の確保など、まずはきちんと確保できる体制を維持できるよう努めていく。

Q.今般のウクライナ情勢で、シェールオイル・ガス掘削市場はどのように変化しているのか

A.ウクライナ情勢でシェールオイル・ガスへの見方というものがかなり変化してきている。リグ数などはコロナ禍以前の水準近くまで戻りつつあるが、まだそこまでの回復には至っていない。今後の化石燃料への評価に対する不安もあり、大きな投資に躊躇している掘削会社も多い。とりあえず今あるDUC（掘削後、産出までの仕上げに至らない井戸）から生産している。

フラックプラグ市場は、コロナ禍以前は60万本くらいの規模であったが、2021年度は約40万本、2022年度でも約50万本と推測している。こうした市場環境下で、当社の製品は特定の鉱区では確かな立場を得ているが全体から見ると小さく、適応できる鉱区を拡大する新商品の開発を急いでいる。

Q.DUCが稼働するとPGAプラグが使われるということでしょうか

A.井戸を掘った後、プラグを使用する「フラッキング」をせずに開発を止めてる井戸がDUC。これを仕上げる過程で、プラグが使用される。

Q.新規農薬の開発とは、どのくらいの規模で、どういうステージまでできているのか

A.現在は開発のパートナー企業も決まり、上市に向けて確度は上がってきているが、現時点においての規模や上市のタイミングについての公表は控えたい。

以上